第二講　傍線部理由説明問題解法　35分

傍線部理由説明問題　LEVEL 7

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

化学物質と人の健康との関係で、リスク評価が課題になってきたのは、発がん性物質が増えてきたからである。それまでは、有害な物質については、行政が安全基準を出し、その範囲内で化学物質を使うというルールがあった。<u>そこで提供される安全基準が必ずしも安全を保証するものでない</u>ことは、多くの人が気付いていはいるのだが、はっきりした事故がおきるまでは黙っているというのが普通であった。

この安全基準の基礎になっているのは、一定量の有害物が体内に入っても人間の身体には治癒能力があるから安全であるという考え方である。これは、われわれはしきい値があるとか、恕限度があると表現する。

（中西準子『環境リスク論』）

問　傍線「そこで提供される安全基準が必ずしも安全を保証するものでない」のはなぜか。その理由を二五字以内で記せ。

傍線部理由説明問題 LEVEL 8

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

わたしたちはモデルに従って、自分の衣服、自分の身体を見る。モデルに則って衣服を取り換え、身体を変形する。モードの主導権。標準的なサイズ、規範的な形態が、わたしたちを金縛りにする。しかも、当の標準や規範は目まぐるしく変化する。そしてわたしたちは、そのつど見えない規則を遵守し、ときにはそれから逸脱するほどに、装飾をこらし、衣服で身体を拘束し、ひいては自分自身の身体をも変形しつづける。そしてそれでもなお、わたしたちは自分の衣服に、自分の身体に、（1）いつも不安を抱きつづけるしかないのだ。

これは、ファッションに関心があるか、ないか、ということとは何の関係もない。〈わたし〉はいつもすでにファッションの視線に貫通されているのであって、〈わたし〉がファッションを外側から対象として眺めることができるというのはひとつの抽象である「ファッションには何の興味も関心もない」と宣言するひとも現に衣服を身につけているはずだし、衣服であるかぎりそこにはスタイルがある。皮肉なことに、ファッションに無

感覚なひとほどワン・パターンの「流行服」（たとえばドブネズミ色や紺色の背広姿）で身を固めているようで、様式にこだわるという語の本来の意味で、(2)彼らこそもっともファッショナブルな種族なのかもしれない。要は、問うか、問わないか、その違いがあるだけなのだ。問うに値するかどうかは、問いに直面していないひとがとやかく言うべきことではない。

（鷲田清一『モードの迷宮』）

（注）※　質料——物を形作る材料や素材のこと。

※※　デフォルメ——対象・素材の形態を意識的に変形すること。

（A）――線（1）の部分について、不安を抱きつづけるのはなぜか。本文に即して句読点とも四十字以内で記せ。

（B）――線（2）の部分について、その理由を説明した文として最も適当なものを左記各項の中から一つ選び、番号で答えよ。

1　彼らはファッションの視線に貫通されているから。
2　彼らはファッションに含まれる規範性にこだわっているから。
3　彼らはその時々のファッションに左右されているから。
4　彼らはファッションのまなざしに身体を規制されているから。
5　彼らはファッションの理想を目指していないから。

傍線部理由説明問題　LEVEL 9

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

もちろん人間も生命ある動物ゆえ、今生きている現在という時間が、関心の重要な中心を占める。とりわけ子どもという存在は、家族や社会制度に保護されるなかで、「現在」だけを生きているといってもいい。歴史ということばを聞いても、自分とは関係のない遠い領域だとしか思わないだろう。なぜなら自分に関わるすべては、「未来」も含めて現在の内側にあって、回りの他人からは過ぎ去ってしまった時間のように見えるものも、子ども自身の感覚のなかでは、未分化なままつながっているからである。「現在」という時間から切り離され隔てられてはじめて、「過去」は過ぎ去ったできごととして現れる。その意味で、子どもには過去がない。

（佐藤健二『歴史と出会い、社会を見いだす』）

問　傍線部「子どもには過去がない」とあるが、なぜ「子どもには過去がない」のか。五十字以内（句読点を含む）でわかりやすく説明せよ。

レベル7

レベル8

（A）

（B）

レベル9

問

第二講　模範解答

レベル7

行政は治癒を前提に一定量の有害物を認めるから。

レベル8

Ⓐ 人々が従う衣服や身体のモデルの、標準的なサイズや規範的な形態が変化し続けるから。

Ⓑ 2

レベル9

問

過去は現在と切り離されなければならないが、子供は全ての時間が現在と未分化なままつながっているから。